
写真

雪空

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

写真

【著者名】

NZマーク

N9782C

【作者名】

雪空

【あらすじ】

ヒナとマヤのぼのぼのとしたお話をス。

(前書き)

写真が繋げた2人の物語

「」の前言つてた写真どうする?今日撮るか?」

「うん、雅が予定大丈夫なら今日撮りたい。」

「オッケー。じゃあ、後でな。」

「よろしく」

私、染井 離。今年でようやくハタチ。現在大学2年生。あ、今話してたのは高梨 雅。黒髪で肌が白くて綺麗な男の口。なんで女の私より綺麗なんだ?って思っちゃうくらい。

私達の出会いは高校生の時。入学式の後の教室で見た光景は今でも覚えてる。

春の日差しに写し出された綺麗な男の口。目を奪われた。その時全身が震えた気がした。

「バンツ!!」
「な、何!?」
「私のモデルになつて!」
「は?」

今思えばなんてコトを…。若かつたなあ、私（笑）私の趣味は写真を撮るコト。あの事件（？）以来私は彼を撮っている。基本的には風景を撮るコトが多い。人を撮るのはあまり好きじゃない。でも雅は別。雅が風景の中に立つと風景に取り込まれてしまうんじゃないかなってぐらいハマってしまう。まるでジグソーパズルの最後のピースが雅であるかの様に…

「…………雛……雛つ！」

「えつ、何！？」

「お前ボーッとし過ぎ（笑）もう1限終わったぞ。」

「不覚。90分も思い出に浸つてたなんて…先生、ゴメンナサイ。

「考え方？」

「うん、ちょっとね。」

「写真のコトか？」

「まあ、そんなトコ。」「ウソじゃないし。

「ふーん。今日はじつこつ感じに撮るんだ？」

「撮るまで秘密」

「えー？ 教えろよー。」

「やーだよー」

ガタンッ

「あ、待てよー。」

「やだよー。」

パタパタパタ

今日も最高の一枚が撮れました

(後書き)

ちょっとテンポが早すぎたかんがあります。
それでも読んでくれた方に感謝いたします。
ありがとうございます

読みにくかったかも…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9782c/>

写真

2011年1月18日04時28分発行